

## 日本痛風・尿酸核酸学会

### 総会議事録

開催日時：令和4年2月17日（木）13:50～14:10

形式：オンライン会議

金子理事長が議長席に着き、令和4年度総会の開催を宣言した。審議に先立ち議長より本日の出席状況は下記の通りとなっており  
会員数557名 出席者86名 委任状提出者243名  
定款第19条の規定により総会が成立することが報告された。

はじめに総会長の津谷先生からご挨拶があった。オンサイトから急遽オンライン開催になりご迷惑をおかけしたが、どうにか開催の日を迎えられて安堵している。本日の朝の段階で227名の参加の登録があり大変有り難い。引き続き活発な会にさせていただけるよう期待している。

続いて下記審議が行われた。

議案1 令和3年（2021年度）決算・監査報告 細山田庶務幹事  
貸借対照表・正味財産増減計算書に基づき決算報告の説明があった。正味財産合計が56,568,447円となり前年度に比べ、600万円ほど増加した。正味財産増減計算書では前年度に旧学会財産を寄付金として組み込んだ経緯から、当年度寄付金は減額となっている。会員は557名で会費収入は横ばいとなっているが90名未納の方がいるので、納めていただきたい。ガイドライン転載許諾料が600万円ほどあり正味財産の増加に寄与している。また今年度より総会収入、総会費を学会会計に歳入しているので経常費用が増額となっている。税理士より通帳の記載と正味財産は一致していると確認済みであり、さらに板倉監事、嶺尾監事、笹田監事からも監査報告をもらっているとのことであった。

議案2 令和4年（2022年度）予算案 細山田庶務幹事  
引き続き細山田庶務幹事より予算案に基づき説明があった。経常収益としては前年度実績程度としている。ガイドラインの追補版が出版されたことから印税で350万、転載利用料金に関しては150万減額として450万計上している。経常費用についても前年度実績程度としている。以上より、次年度の経常増減は175万円増と想定している。

議案3 ガイドライン中国語翻訳版に関する経費について 金子理事長  
2年前の理事会と総会でガイドラインの中国語版の作成について承認されていた。これを進めていたところ、出版直前の昨年6月に天津科技翻訳出版社と翻訳者との間に、(出版費用が自費出版と見なされ、5万円の請求が翻訳者にいくという)行き違いがあり、その問題の処理について、診断と治療社とタトル・モリエージェンシー、中国出版社、本学会とで協議してきた。学会としても、ありかた委員会・ガイドライン広報委員会・理事会・評議員会で検討し、出版に関してはこのまま継続していくという賛同が得られた。また学会が相談してきた税理士、弁護士より解決策として3つの条件が提案された。

①GL 中国語翻訳版出版に関して5万円の「出版協力金」を学会から支出することを理事会・総会で認可いただくこと。

②GL 中国語翻訳版出版に関して、①以外の支出に学会が応じる必要は将来に亘ってないことを確認すること。

③①の支出後にGL 中国語翻訳版が180日以内に出版されない場合、同額を学会に返還すること。

この3つの条件が理事会・総会で認可されたのち中国翻訳出版社に確認する予定であるとのこと。出版協力金5万円相当を学会から中国語翻訳版の窓口である内田俊也先生にお支払いしてすすめていただくこととする。

議案4 第57回総会(2024年開催)会長決定 金子理事長  
学会総会は西日本と東日本で隔年開催しており、次回は東日本なので、次々回の第57回は西日本となり、鳥取赤十字病院 荻野和秀先生にお願いをして内諾を得ている。

議案5 役員改選 金子理事長

(i) 理事の改選

任期満了による退任1名 内田俊也理事

新規選任3名 大山博司評議員、荻野和秀評議員、森崎裕子評議員

(ii) 評議員の改選

任期満了による退任2名 飯笹泰藏評議員、日高雄二評議員

本人からの辞退1名 浜口朋也評議員

新規選任1名 寺本 圭先生

(iii) 名誉会員の承認 内田俊也理事

(iv) ガイドライン広報委員長 市田公美副理事長

金子議長が議案 1 から 5 までの賛否を諮ったところ、出席者全員の賛意を得て承認された。

#### 議案 6 活動報告 金子理事長

1. 学会賞：防衛医科大学校 分子生体制御学 講師 中山昌喜先生に決定したことが報告された。

2. 優秀論文賞：福井大学 此下忠志先生、東京慈恵会医科大学 本田康介先生、同じく東京慈恵会医科大学 栗山哲先生に決定したことが報告された。

3. 編集委員会報告：J-Stage アクセス数、論文掲載数、転載利用料金の改定、優秀論文賞内規の変更、優秀演題賞の新規開設などが報告された。

4. ガイドライン広報委員会報告：会員専用ページにガイドラインのキースライドと学会公認のバーチャル背景を掲載した。高尿酸血症と痛風のガイドラインの動画を YouTube で一般公開した。ガイドライン第 3 版の活用状況について浜田先生が今回の総会で発表されたことなどが報告された。

5. ガイドライン改定委員会報告：ガイドライン第 3 版追補版が 2 月 15 日に発刊された。ガイドライン第 4 版の作成に向けて WEB 講演会を予定している事が報告された。

6. 認定痛風医資格制度委員会報告：第 10 回教育研修会を第 54 回総会とあわせて WEB によるオンデマンド形式で行った。第 7 回認定痛風医試験を Computer Based Testing で行った。新規申請者は 2 名、更新者は 20 名であり、審査の結果全員資格を満たしていた。第 11 回教育研修会を 4 月に WEB で実施する予定であり、現在視聴申込みを受け付けている。

7. ダイバーシティ推進委員会報告：昨年の 2 月に発足し 3 回委員会を行った。まず男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー会員として入会した。2021 年 4 月に学会員を対象に学会参加に関するアンケートを送って、結果を会員専用のページに掲載した。女性学会員と女性の評議員が少ないという声や、医師や看護師より託児室を併設してほしいという声などがあつた。託児所は第 56 回の四ノ宮先生の時にお願ひしたい。また、ニーズ調

査アンケートは今回学会参加者を対象に実施したい。さらに若手委員会と協力して、隔年でその委員会のセッションを1つ作っていく予定。第55回が若手委員会なので、第56回の四ノ宮先生の際はダイバーシティ委員会となる。5月ごろまでに案を作成する。

8. 若手委員会報告：目的は若手を中心とした自由な発想で議論し総会での企画や委員会活動への新たな提案をすべく結成された。昨年は5月～12月にかけて6回活動を行った。今回の総会において若手委員会主催のシンポジウムを企画した。次年度の目標としては様々な分野の先生がいるので共著論文を執筆すること、ジョイントシンポジウムを行うこと、ベテランの先生方に尿酸関連の若手研究者を紹介して頂くこと、若手とベテランの交流の場を設けることなどを掲げた。

9. ありがた委員会報告：若手研究者対象のAwardと助成を新設した。今後の流れはありがた委員会・理事会・評議員会では承認されたので、この総会で承認を得た後、趣意書を公開して寄付の公募をする。平行して若手研究者から応募を開始し(3月末〆切)、4月に選考委員を決めて依頼する。5月に選考結果を本人に通知し、夏頃WEBにて講演会を行う。助成に関してはそのときに発表することが報告された。

その後金子理事長と市田編集委員長による、学会賞授賞式および優秀論文賞授賞式が執り行われた。

最後に次回第56回日本痛風・尿酸核酸学会総会長の防衛医科大学校長四ノ宮成祥先生よりご挨拶があった。今回のテーマは「知の探淵へ」である。日程は2023年2月23日(木)・24日(金)で、会場はグランドヒル市ヶ谷を予定している。まだコロナの状況が読めないので何とも言えないが願わくは現地開催したい。しかしコロナの状況次第ではオンラインと両方の準備をしていきたいとのことであった。

閉会挨拶 金子理事長

上記議事録の内容が正確であることを証する為、定款第 21 条の規程により議長及び出席理事 2 名が議事録署名人としてこれに記名押印する。

令和 4 年 2 月 17 日

議長（理事長）

金子 希代子



議事録署名人（理事）

市田 公美



同

細山田 真

